2024年度全学統一入学試験問題

国　　語【看護学部】

（2月3日）

開始時刻　　午後1時00分
終了時刻　　午後2時00分

※　数学の問題は，本冊子の左開きのページにあります。

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 落丁，乱丁，印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあった場合には申し出てください。
3. 国語か数学のどちらか1科目を選択し，該当する解答用紙を切り離して解答してください。2科目とも解答した場合は，すべて無効となります。

   国　　語　1～20ページ

4. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので，監督員の指示に従って，それぞれ正しく記入し，マークしてください。

   ①　受験番号欄

   受験番号を記入し，さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合は，採点できないことがあります。

   ②　氏名欄

   氏名とフリガナを記入してください。

5. 解答は解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば，［10］と表示のある問いに対してⓒと解答する場合は，次の(例)のように解答番号10の解答欄のⓒにマークしてください。

   (例)

10	ⓐ	ⓑ	ⓒ	ⓓ	ⓔ

6. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。
7. 試験終了後，問題冊子は持ち帰ってください。

一

次の文章を読んで、**問一**～**八**に答えなさい。

文化には大きく分けてふたつの形態がある。

ひとつは、芸術品や建築物などの目に見える文化だ。もうひとつは、制度や習慣などの目に見えない文化[A]である。

目に見える文化は、その文化に属している人にもいない人にも、それが文化であることがわかりやすい。エジプトのピラミッドや日本の寺院を見て、独自な文化を感じない人はいないだろう。わかりやすいので、意識されることも多いし、研究の対象にもなりやすい。これに対して、目に見えない文化は、多かれ少なかれ個人への刷り込みによって内面化されるため、普段は意識されることが少ない。意識されないので、検討の対象にもなりにくい。

しかし、目に見えるものより、目に見えないもののほうが、内面化されているがゆえにより[ア]コウソク力が強いともいえる。しかも、コウソク力が強いにもかかわらず、意識されることが少ないとすれば、それは文化としてより根深いものではないだろうか。

人は、生まれ落ちて以来、生命維持のため、だれもが毎日複数回、飲食という行為を繰り返している。飲食を外部の対象の主体内への摂取と考えれば、サプリメントや点滴もひろい意味での飲食なので、わたしたちは死ぬまで飲食から逃れられないことになる。

つまり、長いふだんの刷り込みによってかたちづくられるのが飲食という文化なのだ。そして、長い習慣的ともいえる刷り込みがあるがゆえに、飲食という行為は文化として個人の主体に深く根をおろしている。飲食とは、こういってよければ、わたしたち内部でひとつの〈制度〉となった行為と判断の体系であり、〈感性〉となった習慣にほかならない。フランスのアナール派歴史学(注)の用語を用いれば「マンタリテ mentalité」（英語の〈メンタリティ〉mentality）〈心性〉となった習慣である。

アナール派の概念をここでもちだしたのは、より個人的でより個別的な意味あいの強い〈感性〉に対して、〈心性〉のほうがある文化でより永続性があり、より普遍性のある主体の対象に対する内面的な価値観をさししめすのに適しているからである。個人的な好悪の原因となる〈感性〉にくらべて、[B]アナール派的な〈心性〉は、ある時代をつうじてみられる集団的に共有された持続的な心の状態である。

ご飯にマヨネーズがうまいと思うのは個人の〈感性〉だが、日本人ならパサついたご飯よりも、ふっくらと炊かれたご飯が好きだというのが〈心性〉だといったらわかりやすいだろうか。【①】

いずれにしろ、飲食行為は、それを文化としてとらえた場合、まさに目に見えない文化の典型であることがわかる。

もちろん、飲食という行為は、具体的なかたちをもつ料理や飲み物がなければはじまらない。

そのため、食文化というとすぐ飲み物をふくめた料理になってしまうが、じつは料理は飲食の一部でしかない。料理は無数の食べられることが可能なもののなかからあるものをセンタク(イ)して、食べるのにより適した形態に変化させる変成過程の結果として生じたものである。つまり、自然と人間をつなぐ仲介項なのだ。さらに、料理は作る側と食べる側ともつなぐ。人と人とをつなぐ仲介項でもある。【②】

いろいろなものをつなぐ仲介項だから、飲食で料理がクローズアップされるのはいたしかたのないことかもしれない。しかし、この料理も、そのときどきにかたちをとって目に見えるものになるものの、美術品や文学作品のように存続することはむずかしく、永続的に目に見える文化とはならない。それにもともと、飲食は料理だけにかかわるものではない。【③】

そして、そのような文化的な行為としての飲食をささえるのは、行為の主体であるわたしたちがもつ〈感性〉であり、さらにその個人の〈感性〉を大きく規定するのがアナール派的にみれば時代の〈心性〉なのである。なにをうまいと思い、どのような行為をよしとするか、それはわたしたちの〈感性〉に、あるいはそのもとになる〈心性〉による。では、そのような飲食行為における〈感性〉や〈心性〉はなにによってかたちづくられるのだろうか。それは、まさに繰り返される飲食行為そのものによってかたちづくられるのだ。

C どこか堂々めぐりのようだが、飲食にはそのような目に見えない文化のときにスタティック（静的）でありつつ（習慣的な行動によって日本人ならふっくらとしたご飯を好み、フランス人ならパリッとしたパンが好きといった味覚が形成される）、場合によって臨機応変に変化に対応するダイナミックさ（パサパサしたご飯もチャーハンにするとおいしいと思うようになる、モッチリしたパンにもうまさを見出すといった、これまでとは異なった飲食行動の形成）を合わせもった複雑な文化現象なのだ。【④】

一度刷り込まれた飲食行為が意外と［X］な面をもちながら、一方でときに［Y］な面をしめすのも、こうした飲食の両義性に由来している。

そのような文化的行為としての飲食の両義性をふまえたうえで、これから問題にしようとするのは、じつは変化しながらも現代にまで引き継がれている日本人の飲食行為の背景に横たわる、ある明確なひとつの〈心性〉である。

*具体的な検討に入る前に、もうひとつ〈心性〉を背景にした文化的な行為としての飲食について確認しておきたいことがある。

それは、文化的な行為はすべからく表現されることで「洗練」されるということだ。ここでいう「洗練」とは、微妙な違いを理解するということである。

たとえば、飲食についてみれば、日本人ならほとんどの人がご飯について、これは「もちっとしている」「お米がたってしゃきっとしている」など、微妙な差異を感じとり表現できるはずだ。フランス人なら、同じ差異をパンやチーズに感じとることだろう。そして、このこまかい差異を見分け

る「洗練」は、日々の習慣的行動にささえられながら、そのような表現によって確認され、補強されつつ、より深く身体化されていく。【⑤】

またしても多少堂々めぐりのようだが、ここにも洗練が表現を生み、表現が洗練をうながすというソウゴ構成過程が見出される。どうも目に見えない文化をあつかうと、この受動的で能動的、行動によって形成されながら、行動を主導するといった両義性は避けることができないようだ。

*（中略）

もう一度繰り返せば、文化的行為は表現によって洗練され、洗練された行為として表現されていく。表現はもちろん図像によるものであることもあれば（たとえば彫刻や絵画）、言語によるもの（文学や評論）であることもある。そして、そのように表現されたものは、個人の〈感性〉をとおしたものであっても、つねに一定程度集団的な〈心性〉の集約されたかたちの表現であり、それによってまた個人の〈感性〉が培われ、そして結果的にそうした個人の集合としての社会集団全体の〈心性〉が養われていくのである。

（福田育弘『ともに食べるということ――共食にみる日本人の感性』による。設問の関係上、本文を改めたところに*を付した。）

（注）　アナール派――現代フランス歴史学の主要学派。「アナール」は「年報」の意で、L・フェーブルとM・ブロックによって一九二九年に創刊された雑誌名にちなむ。

問一　傍線部ア～ウと同じ漢字を含むものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが 1 、イが 2 、ウが 3 。

ア　コウソク

ⓐ 回復のチョウコウが見える
ⓑ コウバイの急な坂を登る
ⓒ 免疫キコウを研究する
ⓓ 小事にコウデイする
ⓔ キンコウ状態が崩れる

イ　センタク

ⓐ 土地をカイタクする
ⓑ 動議がサイタクされる
ⓒ タクジ所に預ける
ⓓ 金属を磨いてコウタクを出す
ⓔ 早朝にキタクする

ウ　ソウゴ

ⓐ 時代サクゴも甚だしい
ⓑ 人権ヨウゴの立場で発言する
ⓒ カクゴをもって事に臨む
ⓓ ゴカクの戦いを繰り広げる
ⓔ 老舗のゴフク店に勤める

問二　傍線部A「目に見えない文化」とあるが、この説明として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 4 。

ⓐ 度重なる繰り返しによって制度と化した行為と判断の体系であり、社会全体に深く根をおろしている。
ⓑ 人同士をつなぐ仲介項であり、目に見える文化より大切なものなので、より検討がなされるべきである。
ⓒ 普段は意識されることが少ないが、その国の特色を決定づける、なくてはならない要素の一つである。
ⓓ 長い習慣的な刷り込みによってかたちづくられ、内面化されるがゆえに、研究の対象にはなりにくい。
ⓔ 芸術品や建築物などと同じように、具体的なかたちをもつ料理が基になる食文化はこれには含まれない。

問三　傍線部B「アナール派的な〈心性〉」とあるが、この例として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 5 。

ⓐ　流行(はや)りの服かどうかよりも、自分の個性に合っているかどうかを重視して洋服を選ぶことにしている。

ⓑ　桜をテーマにした日本の歌には、花が散る様子に感じ取るせつなさやはかなさを表現したものが多い。

ⓒ　内壁をつくらずに内側の大きな空間を障子やふすまなどで仕切るのが、日本の伝統家屋の特徴である。

ⓓ　新たな感染症が大流行した影響によって、個人個人が身の回りの衛生管理をより徹底するようになった。

ⓔ　最近はタイムパフォーマンスが重視されるようになり、映画などのコンテンツを倍速視聴する人が増えた。

問四　本文中には次の一文が脱落している。この文が入る箇所として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 6 。

食べ物への嗜好(しこう)や食べ方、食べる時間や空間の設定など、多方面にわたって多様な意味をもつ複雑な文化的行為の全体が飲食なのだ。

ⓐ【①】
ⓑ【②】
ⓒ【③】
ⓓ【④】
ⓔ【⑤】

問五　傍線部C「どこか堂々めぐりのようだ」とあるが、なぜ「堂々めぐり」なのか。この理由として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 7 。

ⓐ　料理は自然物を可食物に変化させることで自然と人間をつなぐだけでなく、人と人とをつなぐ仲介項でもあると考えられるから。

ⓑ　目に見える食材を使って作られる料理も、目に見えない調理技術が駆使されて初めて成立し得るものであると考えられるから。

ⓒ　その時代に生きる誰もが有する〈心性〉は個人的な〈感性〉と違って、時代性を決定づける必須要素であると考えられるから。

ⓓ　文化的行為である飲食は個人の〈感性〉にささえられるが、その根幹にあるのは時代の〈心性〉であると考えられるから。

ⓔ　飲食という文化的行為を主導する〈感性〉と〈心性〉は、その飲食行為そのものによって形成されると考えられるから。

問六　空欄 X と Y に入る表現の組み合わせとして最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 8 。

ⓐ　Xが「消極的」、Yが「積極的」

ⓑ　Xが「保守的」、Yが「革新的」

ⓒ　Xが「偏狭的」、Yが「多角的」

ⓓ　Xが「画期的」、Yが「因習的」

ⓔ　Xが「永続的」、Yが「一時的」

問七　傍線部D「そのような表現によって確認され、補強されつつ、より深く身体化されていく」とあるが、この説明として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 9 。

ⓐ　感じとった微細な違いを言葉にして表現することによって、対象に対する内面的な価値観として確立していくということ。

ⓑ　感じとった微妙な差異をさまざまな言い方で表現するうちに、その差異が可視化され、明確なものになっていくということ。

ⓒ　文化的な行為が洗練されるには表現という行為が不可欠だが、それは日々の習慣的行動の中でこそなされるべきだということ。

ⓓ　日々の習慣行動によってこまかい差異をとらえる能力が向上し、瞬時に対象の特徴を言語化できるようになっていくということ。

ⓔ　飲食といったなにげない日々の習慣行動の中にも、こまかい差異を感じとり、それを言葉で表現することが求められるということ。

問八　本文の内容と合致しているものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 10 。

ⓐ　文化的行為をささえる主体はあくまでも個人の〈感性〉であり、時代的かつ集団的な〈心性〉はその補助的な役割を担うに過ぎない。

ⓑ　食文化は他の文化とは異なり、ときに社会集団全体の〈心性〉よりも個人的な〈感性〉が勝ることがあるという複雑な文化現象である。

ⓒ　目に見える見えないに関わらず、文化的行為によって表現されたものは、その個人の属する社会集団全体の〈心性〉を表すものとなる。

ⓓ　日本人とフランス人で主食に対する感じ方が異なるのは、個人の〈感性〉ではなく各社会集団特有の〈心性〉の相違によるものである。

ⓔ　料理は個別的な〈感性〉によって成り立つ文化だが、言葉で表現するという行為を経て洗練され、普遍的に目に見える文化となり得る。

二

次の文章を読んで、**問一**～**七**に答えなさい。

地震・火山・気象は私が専門とする地球科学の現象であり、いずれも地球のダイナミックな活動がもたらす典型的な自然災害、つまり「天災」である。これまで四五年ほど研究をつづけてきたなかでも、私は昨今みられる災害の規模と多様性に驚いている。それは、日本列島がある事件をきっかけに大きく変化したことと関係するのである。

その事件とは、二〇一一年三月一一日に東北沖で発生した巨大地震、すなわち東北地方太平洋沖地震である。この地震は多数の犠牲者と被害を生じたため、閣議決定によって「東日本大震災」と命名された。

また、発生した日付から「3・11」と呼ばれることもある激甚災害である。その後、御嶽山や箱根山や草津白根山など噴火災害が発生した活火山がいくつもあり、東日本大震災によってユウハツされた変動のひとつと解釈されている。

地球科学には「過去は未来を解く鍵」という名言がある。歴史を振り返ると、過去に起きた現象からたくさんの有益な情報が得られることを意味する。そして現在の状態を正しく理解し、さらに未来を予測することまでが可能となる。

この結果、現在の不安定な状況は九世紀の日本列島とよく似ていることが分かってきた。すなわち、約一一〇〇年前の平安時代の日本では、地震と噴火がとくに多かったという記録が数多く残っているのである。そして、「3・11」のもたらした事件は、九世紀以来という千年ぶりの「大地変動の時代」が始まったことを意味する。*言い換えれば、今後迫りくる「天災」とどう向きあうかが、日本人の全員にとって重要なテーマとなってしまったのである。

*ここで「天災」の成り立ちについて考えてみよう。たとえば、噴火は人が遭遇した時には災害となるが、もし誰もいないところで起きれば災害にはならない。つまり、噴火は自然が起こす「現象」であるが、人間社会を基準にした時には「災害」が発生する。ここではじめて「天災」という言葉で語られるのである。

よって、災害を減らすためには、人間がこうした自然現象に遭わないようにすればよい。ここで「科学」が登場し地球科学はまさにそのために発展した学問である。

火山の地下の状態を観測することによって、噴火が起きる前に噴火を察知する。これは「噴火予知」の科学であるが、噴火の兆候を事前に知ることで、火山近くに住む人々が安全に避難することが可能である。

そもそも自然をコントロールすることは不可能である。よって噴火を止めることはできないが、噴火がもたらす災害を「科学」の力で軽減（すなわ

ち減災）することは可能なのである。

そして科学には「予測と制御」という重要な側面がある。たとえば、過去の震災について書かれた古文書や、地質堆積物として地層中に残された巨大津波などの痕跡から、今後起こりうる災害の規模と時期をスイテイ(イ)する。

予測されたことから未来に向かって、災害が起こらないように制御を行うのも科学と技術の力である。つまり、噴火中の火山から、火山学の知識を活用して上手に逃げればよいのだ。

一七世紀のイギリスの哲学者フランシス・ベーコン（一五六一～一六二六）は「知識は力なり」と述べた。「大地変動の時代」を迎えた日本人が正しい地球科学の知識をもち、人間の力をはるかに超える自然現象と上手につきあってほしいと願っている。

*世界屈指の変動地域にある日本では、地面が揺れ、火山が噴火し、台風がやってくるのは当たり前の「現象」である。そして巨視的にみると、日本人にはこうした「天災」に対処する能力があるのだと思う。

つまり、日本では変化すること自体が「常態」になっている。おそらく日本列島で一〇万年以上もまれつつ適応した結果、私たちはある種の「しなやかさ」(C)を身につけてきたともいえるだろう。このしなやかさを維持するために、地球科学の知識が役に立つ。

今後も数十年もの長い間、日本列島では地震・火山・気象に関する自然災害が続出することは間違いない。一方で、噴火と噴火の合間には、美しい風景や温泉などの「火山の恵み」を享受できることも、忘れてはならない。こうした関係は、地震災害や気象災害についてもいえる。すなわち、災害(D)と恵みは表裏一体なのである。

地球上に人が住める環境は太古からあったと思いがちだが、大きな間違いである。現在の温和な地球環境は、幸運な偶然の積み重ねの上にできたからだ。つまり、過去に起きたおびただしい事件が、今の奇跡的な地球環境を作った。

視点を変えれば、私たちは「偶然に生かされている」と言っても過言ではない。しかも、たいへん面白いことに、何十万年という地球独自のリズムに沿って、生物は生かされているのである。

たとえば、氷期と間氷期が交互に到来し、地震や火山の噴火が起きるリズムである。地球の変動は生物にとっては大きな試練となるが、地球にとってはごく普通の現象である。

さらに、地球の未来は近視眼的な数十年スケジュールでは見えてこない。地球を何億～何千万年という長い時間スケールで捉えると、初めてその本質が姿を現す。

私たち人類は当然のごとく地球上を支配してきたが、実際には地球という「母なる大地」に生かされている小さな存在である。地球の豊かな環境

がなければ決して生きてはいけなかった生物なのである。

よって、地球の壮大な姿を知ると、自然に対する［　X　］が生まれてくる。私は日本人全員が地球科学の最先端の知識を持ち、人間の力をはるかに超える自然現象と上手に付き合っていただきたいと願っている。

＊地球科学が提案したいもっとも重要な視座(注)は「長尺の目」である。というのは、一〇〇年や一〇〇〇年などの時間軸で見ることが、生き方や文化を変えることにつながるからである。

本文でも注意を促した南海トラフ巨大地震は約一〇〇年に一回の頻度で起きてきた。また、東日本大震災を起こした巨大地震は約一〇〇〇年に一度であった。このように日常生活では考えもしない時間軸で動く日本列島に、我々は住んでいる。

（鎌田浩毅『知っておきたい地球科学――ビッグバンから大地変動まで』による。設問の関係上、本文を改めたところに＊を付した。）

（注）　視座――物事を見る姿勢や立場のこと。

問一　傍線部ア、イと同じ漢字を含むものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが 11 、イが 12 。

ア　ユウハツ

ⓐ ユウシュウな人材を配置する
ⓑ 次の戦いでシユウを決する
ⓒ ユウザイ判決が下される
ⓓ 巨悪にユウカンに立ち向かう
ⓔ 環境保護活動にカンユウする

イ　スイテイ

ⓐ スイミン時間を削る
ⓑ ケンスイで体を鍛える
ⓒ ジュンスイな気持ちを抱く
ⓓ 話の結末をスイソクする
ⓔ 洪水で畑がカンスイする

問二　傍線部A「典型的な自然災害」とあるが、これはどのようなものか。最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 13 。

ⓐ 科学と技術の力により完璧に防げるもの
ⓑ 人間が遭遇した時にはじめて「災害」となるもの
ⓒ 過去の事象からパターン化された単一性のもの
ⓓ 発生のタイミングや場所を操作できるもの
ⓔ 環境破壊が要因となり引き起こされるもの

問三　傍線部B「『大地変動の時代』」とあるが、これはどのような時代か。最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 14 。

ⓐ 自然災害を命名する際に被害の規模を考慮することが求められる時代
ⓑ 不安定な状況の中日本列島だけは変化をしない謎が解明される時代
ⓒ 地震や火山の噴火といった自然現象と付き合うための知識が役立つ時代
ⓓ 災害にまつわる正しい情報を全世界に広める活動が受け入れられる時代
ⓔ 自然災害に対し「過去は未来を解く鍵」という考えが通用しない時代

問四　傍線部C「『しなやかさ』」とあるが、それを維持するためにはどのようなことが必要だと筆者は考えているか。**適切ではないもの**を次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 15 。

ⓐ　自然災害とは無縁の地域で安全な暮らしを続ける
ⓑ　火山の噴火が起きた時の状況から噴火の兆候を知る
ⓒ　台風のような異常気象に対処するための知識を学ぶ
ⓓ　地震による被害を繰り返さないように対策を練る
ⓔ　災害により環境が変化することを受け入れて生活する

問五　傍線部D「災害と恵みは表裏一体なのである」とあるが、筆者がこのように述べる理由として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 16 。

ⓐ　人間は変動する地球に「偶然に生かされている」ため、災害による被害を受けることは必然と言えるから。
ⓑ　地球の大きな変動は人間にとっては災害になりうるが、現在の温和な地球環境はその変動によってできたものだから。
ⓒ　人間が自然災害から逃げるための方策を学び、後世に伝えようという姿勢は今後の未来に必要な能力と思われるから。
ⓓ　長い時間をかけ地球が変動した事実と、人間が地球に適応するための知恵は災害と同様の価値があるから。
ⓔ　地球科学の発展が目まぐるしい昨今は、地震や火山の噴火といった自然現象の消滅を意図しているから。

問六　空欄 X に入る表現として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 17 。

ⓐ　憎悪の感情
ⓑ　堪えがたい怒り
ⓒ　畏敬の念
ⓓ　圧倒的な優越感
ⓔ　強い対抗心

問七　本文の内容と合致しているものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、18。

ⓐ　過去に起きた地球科学の現象を正しく理解することで、これまでの自然災害による被害をなかったことにできる。

ⓑ　火山の噴火や地震などの自然災害を減らすという観点からみれば、人間社会自体をなくしてしまう方法が確実だ。

ⓒ　「知識は力なり」という考えのもと、科学者や哲学者は地球科学の知識を「予測と制御」のために活用してきた。

ⓓ　地球が人間に支配されて存続している以上、現在の地球環境を生み出したのは全て人間の功績であると考えられる。

ⓔ　地球科学の知識を自然災害の問題に役立てることは可能だが、地球環境の規模を考えると短期間で解決はできない。

三

次の文章を読んで、**問一**～**七**に答えなさい。

ふいに隣に立っていた女性がうずくまった。都内の大学に向かう地下鉄の中でのことであった。もう夕方近くになっていて、そろそろ通勤客が増え出すという頃で、車内は、やや混んでいた。

私は、重いカバンを持ち、吊革（つりかわ）につかまり、ぼんやりとしていた。私の斜め前には、頭髪も少なくなってきている一人の男性が座っていて、本を膝の上に広げていた。やや太めのその男性は、会社勤めの方のようではなく、かなりラフな身だしなみで、定年になって三、四年という雰囲気であった。

X *

その女性がさっとうずくまったのは、それから三駅か四駅、進んだ頃だったと思う。どうしたのかと振り向くと、女性の足元に長方形の白い紙が見えた。栞（しおり）だ！　と私は思った。同時に、先程の本から滑り落ちたんだと察した。その当事者の男性はというと、本を膝に広げたまま、眠り込んでいた。十数分前の熱のこもっていない読書の様子から、この眠りは容易に納得ができた。女性は栞を拾うと、立ち上がりつつ、男性の膝に置かれた本の上に、そっとそれを乗せた。瞬時の出来事であった。

多分、私を除けば、その車両に乗っていて気づいた人間はいなかったと思う。栞をもどしてもらった本人でさえも。その位、自然な振る舞いであった。目の前に座っている男性の本からひらりと落ちていった栞を見て、なんのためらいもなく、しゃがんだのだ。私は、その Y に小さく感服をし、どんな方か見たくなった。しかし、隣に立っている女性をわざわざ覗（のぞ）き込むほど無神経ではない。窓ガラスに映り込んだ姿からは、すらっとしていて、スーツを着ていて、20代後半という感じを受けた。しばらくして、大きめの乗り換え駅に着き、多数の乗客が乗り降りした。私の前の席も空き、私は座り、重いカバンを膝の上にやれやれと乗せた。本を膝の上に乗せたまま眠っていた男性は、今や、私の左隣になって、相変わらず、眠りこけたままである。彼の本の上には、先程の栞が何事もなかったかのようにチンザ（ア）している。その時、私は、先程の女性も、今の乗り換え駅で降りたことに気がついた。私の小さな感服は、伝わったのだろうか、いや、A それは無理な話だろう。

隣の男性の手が動き出した。目が醒めたのだ。膝に置かれていた本を少し顔の方に向け、読み出した。しかし、相変わらず、熱のはいっていない読書であった。栞を本の喉（注）にちょっと押し込んで、読み始めたわけだが、栞がそこにもどったいきさつは、知る由もない。栞が本から滑り落ち、普通なら、そのまま乗客の足蹴にされ、持ち主が気がつかないまま、ゴミとして捨てられてしまうという危機から救われたなんて、思う由はないのである。その真実を知っているのは、彼女と私だけなのである。彼女だって、あの自然な振る舞いからして、もう忘れたことかもしれない。とすると、この事実を知っているのは、私だけ……。

この些細（ささい）な出来事は、なぜか独特なざわつきを持って心に残った。この世の中は、数多（あまた）のことが我々の感知しえないところで起こり、それで成立していることを象徴的に見せられたからなのか？　確かに、私たちの生活、大袈裟（おおげさ）に言えば、存在すらも、自分が知る由もない無数のことで担保されている。そんな教訓めいたものを、この栞の一件は指し示してくれているようにも思える。いや、むしろ最初は、そう考えるのがいいと思っていた。しかし、栞を巡る一連の出来事を、ふと思い出す時に感じるざわつきは、B そんな教訓とは異なる気がしてならないのである。

私は、小学校の高学年になると、日曜日には決まって自転車で『冒険』に出かけた。一人の時もあるが、ほとんどは、近所に住む友達と、二人とか三人で出かけた。『冒険』の行く先は、駿河湾（するがわん）に面した波の打ちつける岩場だったり、休みで人のいない遠くの造船所だったり、イ チョウリュウの仕業（しわざ）で砂鉄ばかりが集まる砂浜の一角だったりした。

ある日曜日、朝ご飯を食べて外に出ると、もう友達のYが自転車と一緒に待っていた。網元の息子であるYは、他の漁師の子どもと違って、粗野なところがまったくなかった。

今日の『冒険』どこに行く？　私は、道龍川（どうりゅうがわ）を上流まで辿（たど）ってみないか、と答えた。いつもの海周りの『冒険』でないところが興味をそそったのか、即決で、行こう行こうとなった。私が生まれ育った村には、大川と道龍川という二つの川があったが、私は、小さい方の道龍川が好きだった。海との境の汽水の場所では天然のウナギがよく取れた。

Yと私は、川に沿って、上流へとどんどん自転車を漕（こ）いだ。山に近くなると、勾配がきつくなってきたが、それでも、力いっぱい漕いだ。とうとう、自転車では登れない急勾配の所まで来て、そこに自転車を置き、その後は、川伝いに徒歩で登ることにした。その頃には、道龍川は、幅が1、2メートルほどの沢になっていた。高い樹が、沢に被さるように茂っていた。人など来ない沢沿いのごろごろ岩を必死で伝い歩き、小一時間も過ぎた頃だろうか、急に人工物が現れた。コンクリートで作られた堰（せき）だった。こんな所にも既に人間が来ている、私たちは驚いた。そして、その堰を『ダム』と呼んだ。規模は、極小ではあるが、格好は立派なダムであった。樹林に囲まれた急な流れを一旦止める役目の『ダム』は、C まるで大自然に象嵌（ぞうがん）されているが如くであった。そのダムの下には、澄んだ水が溜（た）まり、深い淵（ふち）のようになっていた。Yと私は、水際に立ち、呆然（ぼうぜん）として、その淵を眺めた。どこまでも透明な水は、深さが2メートルも3メートルもあることを教えてくれた。大きな岩が重なりあうように底を造っていた。山奥の急勾配の地で、突如、我々の目の前に現れた『ダム』と水の溜まりは、『冒険』の成果としては充分であった。

その時、突然、淵の底の大きな岩が動いた。6、70センチもあろうという塊が、のそっと動いて奥の深いところに向かったのである。

「*山椒魚（さんしょうお）だ、山椒魚だ、大山椒魚だ！」私は叫んだ。Yは無言で、その行方を見ている。私が山椒魚を見たのは、それが初めてで最後でもある。

山の神にも思えたその存在に、私たちは、動けなくなった。間違いなく、この大山椒魚の存在を知ってしまったのは、僕ら二人だけだろう、そんな気持ちだった。そして、小学生の心は、誰も知る由もないことに遭遇できた有り難さでいっぱいになったのだった。

混んだ電車での栞を巡る一連の出来事とあの大山椒魚は、同じであった。片や、出来事で、片や、一匹の生物なので、並び称するのは妙かもしれないが、私にとっては、「誰も知る由もない有り難いこと」という点で、心の中に並んでしまったのである。同じ引き出しの中に、入っているのである。

栞を拾い上げて、元あったところに人知れず返す行為は、その行為があろうがなかろうが、世の中は、一見、変わるわけではない。でも、そんな稀少なものが確かにこの世界に存在している事自体を、私は目撃したのである。私が感じ入ったのは、自分たちの知らないところで、誰かが、何かをやってくれているんだよというような教訓話では、まったくなかったのである。

山奥の大山椒魚は、私たちに具体的なことは何も及ぼさない。強いて言うなら、いてくれているだけである。こんな有り難いことはないと、二人の小さな冒険家は、あの時、感じたのである。そう、私は、都心の地下鉄の中で、D山椒魚を見たのであった。

（佐藤雅彦「栞と山椒魚」『ベスト・エッセイ２０２１』による。設問の関係上、本文を改めたところに＊を付した。）

（注）　本の喉――本の綴じ側にあたる部位。

問一　傍線部ア、イと同じ漢字を含むものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、(1)が 19 、(2)が 20 。

ア　チンザ

ⓐ　自らの失言をチンシャする
ⓑ　駅近のチンタイ物件を探す
ⓒ　ひとりでチンシ黙考する
ⓓ　前代未聞のチンジが起こる
ⓔ　彼は法曹界のジュウチンだ

イ　チョウリュウ

ⓐ　証明書に顔写真をチョウフする
ⓑ　的外れの発言をしてチョウショウを買う
ⓒ　彼は大正期の文芸シチョウに通じている
ⓓ　この映画は典型的な勧善チョウアク物だ
ⓔ　自治会の年会費をチョウシュウする

問二　空欄 X には、次の①～⑤の各文が入る。正しい順に並べるとすれば、どれが最も適切か。次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 21 。

①　でも、熱心に本を読んでいるかというと、そんな様子は感じられず、時間つぶしになんとなく開けている、という印象であった。
②　私の右隣の女性は、その男性の真ん前の吊革に手を掛け、立っていたのだった。
③　今や、電車の中では、新聞を読む方はほとんど見かけず、本を読む方も、以前に比べるとかなり少なくなった。
④　スマートフォンを手にしている人がほとんどの中、上製本に目を落としている姿は珍しく、それ故、私も憶えているのだろう。
⑤　文字しかないように見えたから、何かの小説を読んでいたのだろうか。

ⓐ　②→①→③→⑤→④
ⓑ　③→④→①→⑤→②
ⓒ　③→⑤→①→②→④
ⓓ　④→①→⑤→③→②
ⓔ　④→⑤→③→②→①

問三　空欄 Y に入る表現として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 22 。

ⓐ　巧妙さ
ⓑ　大様さ
ⓒ　唐突さ
ⓓ　律義さ
ⓔ　奇特さ

問四　傍線部A「それは無理な話だろう」とあるが、この理由として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 23 。

ⓐ　自分の思いを伝えたいと思っても、すでに彼女は乗り換え駅で電車を降りてしまっていたから。
ⓑ　落ちた栞を拾うなどというのは、本人でさえもすぐに忘れる程度の取るに足りない行為だから。
ⓒ　栞を拾ってもらった当人は、最後まで眠り込んだまま彼女の行動に気づくことはなかったから。
ⓓ　彼女のことが気になっても、窓ガラス越しに彼女の風貌を確認するくらいしかできなかったから。
ⓔ　見ず知らずの女性に対していきなり自分の思いを伝えたら、きっと不審がられるに違いないから。

問五　傍線部B「そんな教訓」とあるが、この内容を表したものとして最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 24 。

ⓐ　自分の生活は、自分の知らないところで誰かが何かをやってくれていることによって成り立っているのだ。
ⓑ　日常に起こるなにげない小さな出来事の一つ一つが積み重なることによって、人生はかたちづくられるのだ。
ⓒ　社会の中で円滑に生きていくためには、常日頃から他人に対する思いやりを忘れずにもっていることが肝要だ。
ⓓ　相手が見知らぬ人であろうと親切にしておけば、いつかはその報いとして自分によいことが巡ってくるものだ。
ⓔ　世の中では自分と無関係なところでさまざまなことが起こっており、それらをすべて知ろうとしても無理な話だ。

問六　傍線部C「まるで大自然に象嵌されているが如くであった」とあるが、これはどのようなことか。この説明として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 25 。

ⓐ　大自然の中に、自然とは異質の『ダム』という人工物がはめ込まれたように見えるということ。
ⓑ　人の手によって造られた『ダム』でさえも包み込んでしまうほど、大自然は雄大であるということ。
ⓒ　雄大な大自然に『ダム』という人工物が紛れ込み、せっかくの景観が台無しになっているということ。
ⓓ　大自然の中の『ダム』は、人工物か自然物か見分けがつかないほど景観にとけ込んでいるということ。
ⓔ　人間が造った『ダム』の存在を、美しく雄大な大自然が拒否しているかのように感じられるということ。

問七　傍線部D「山椒魚」とあるが、これが象徴している内容として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 26 。

ⓐ　特別に選ばれた者だけが奇跡的に体験しうる、人生を変えてしまうほどの出来事。
ⓑ　他人を思いやる気持ちの大切さを教えてくれた、一人の女性がとっさにとった行動。
ⓒ　他の誰も気づいていない些細なことではあるが、心を動かされる希有なものの存在。
ⓓ　普段は特に意識することはないが、自分をささえるものが確かに存在するという認識。
ⓔ　それまで忘れていた、命の荘厳さを初めて目の当たりにした小学生の時の貴重な体験。